

# ～輝きの子育て～

## 子どもの底力を引き出す言葉 ③

### 【人に信頼されるために】

人付き合いで究極的に大切なのは「誠実さ」です。ウソをつく人やごまかそうとする人は信頼されません。自分が指導者だろうが親だろうが、わからないことはわからないと認め、誠実に対応することです。

### 【人に信頼されるために】

親や指導者は、どんなことでも正当化できてしまいます。自分が何かミスをした、「反面教師としてやった」「この失敗から学べるようにした」など。それではいけません。自分に関しても子どもに関しても、成功か不成功かを決める根拠や確定条件を明確にしておき、その場しのぎで、適当な取り繕いを言わないようにしましょう。

### 【人に信頼されるために】

自分が何かを間違えたら、素直に言うこと。その際、「いかに悔しいか」「悲しいか」などを、感情をこめて話せば、相手は感情の部分に「共感」を示しやすくなります。

### 【発言時の心得】

大人でも子どもでも、聞き手は、あなたの語尾を、気にしていないもの。「彼は優柔不断です」「彼は優柔不断なところがあるかもね」と発言した場合、ともに聞き手のところには「彼＝優柔不断」という印象しか残りません。会話をする際に語尾を弱めの表現に変えても、こちら側の責任の重さは変わらないと心得ましょう。

### 【人を動かすために】

日本では「何を言ったか」よりも「誰が言ったのか」が重要です。極端に言えば、内容ではありません。「この人の言葉は重要だ」と受け取られる自分＝（親）になりましょう。

### 【ひとの行動を改善するために】

子どもや部下に厳しいことを言いたいときは、あくまでも「一般論」として話しましょう。

### 【自信のある子に育てるために】

人の評価は、①Doing（何かをしたこと、行動や実績）、②Having（所持しているもの、所属や属性）、③Being（存在していること、ありのままにいること）の三つの観点から行なえます。具体的には、①は「テストで満点って、すごいね」（満点じゃないと次は評価されない）、②は「お金持ちで、すごいね」（お金がなくなったら評価されない）と言った評価で、社会では通常、①と②の観点で評価されます。まずもって、③では評価されません。ですので、親や家族ぐらいは③「あなたが生きていてうれしい」「そばにいてだけで安らぐ」などを口に出して評価すること。しかし、実際は、親や家族が口に出すのはほとんどの場合、①と②ばかりです。それでは子どもの中で、自己肯定感が育まれません。